

研究テーマ：50%以上の生徒が取り組み、提出できる課題の出し方

所属 土佐市立高岡中学校

氏名 松原桂

R G J H 5

1 研究の背景

2年2組の生徒数は32名。授業時数の関係で、学年団外の私が2組だけ担当している。昨年度は、T Tで授業が行われていたが、今年はTはひとり。昨年度の教員たちも転出。授業では、常に挙手をして発表したが、意欲的な（しかし発表の時以外は私語に夢中）者が約10名。発表はしないが良く指示に従いまじめに学習できる者が約10名。英語の基礎基本や基本的学習習慣が身につけていない者が約5名。このクラスの良さは、質問に対し良く反応があり授業が進め易い点。問題は課題の提出率が低く授業には参加できるが、家庭学習ができずに力が定着しない点である。

2 リサーチクエスト

前回の設定 「生徒が意欲的に取り組み、力をつけていく課題の出し方」

今回の見直し 「50%以上の生徒が取り組み提出できる課題の出し方とその評価の仕方」

3 予備調査…省略

4 仮説

- (1) 提出率の低さにめげず、あきらめず2-2スペシャルを授業時間毎に作り続け、出し続ける。問題数を少なく、易しく、メッセージ欄あり、の原則は守る。アンケートの答えを参考にマンガなども入れる。⇒やってみよう、と思う者が増える。
- (2) 提出された課題は、なるべく次の授業までに点検し返すように努力する。⇒提出したことがきちんと評価されているということで、意欲が高まる。
- (3) 返すときは、ひとことでもコメントを付ける。⇒学年団が違うので、なじみがうすい生徒たち一人ひとりを把握する手掛かりとする。
- (4) 「なるべく多くの人が提出できるようがんばろう」としつこく声がけをし、提出できたものにはシールなどで励ましを与える。⇒クラス全体で提出率を上げようという雰囲気ができてくる。

5 計画の実践

- (1) ワークシートを家庭学習用とせず、授業のなかで説明しながら一緒にやっていく方法に変換
- (2) 学期より土佐市の緊急雇用措置により、突然英語教員が一名加配となる。2-2にもT Tで入ってくれたので、授業中の対応はもちろん、提出物をその日のうちに返すことも可能となった。
- (3) 上記の方法によって提出率は飛躍的にあがったが、さらにクラス担任や土佐市C I Rの協力を得て、やりなおし授業をしたり、帰りの会でワークシートの提出を呼びかけてもらったりした。

6 実践の結果

① 家庭学習提出率

日付	9/10	9/26	9/29	9/30	10/2	10/14	11/5	11/20	11/20
提出数	12	5	7	6	5	10	2	11	3
提出率	39%	16%	24%	22%	17%	33%	7%	38%	3%

② 授業でやったワークシート提出率

日付	9/26	10/6	10/6	10/9	10/16	10/20	10/22	10/27	11/5
提出数	9	15	21	28	25	22	25	18	15
提出率	31%	54%	75%	97%	86%	73%	81%	62%	52%
日付	11/13	11/13	11/28	12/2	12/2	12/15	12/22		
提出数	26	14	14	29	23	27	20		
提出率	87%	50%	50%	97%	79%	100%	69%		

7 結果の検証および成果と課題

- ① 家庭学習提出率は上昇しなかった。アクションリサーチを始める直前に、提出がどんどん減って六名になったことがあった。このことがテーマ設定の直接の動機だったが、ついに提出二名となってしまった日もあった。
- ② しかし、授業はとてもやりやすくなった。一学期当初、発表はよくしていたがワークシートは難しすぎてほとんど手をつけようとしなかった。今学期はほぼ全員が取り組めるようになった。家庭学習の提出率とは反対に100%提出が達成できた日もあった。
- ③ T2の先生が入ってくれるようになったことは大きかったと思う。机間指導によって私語に夢中だった一部の生徒が「書くこと（板書を写すだけでも）」に取り組めるようになった。「ここまで譲らず全員に要求しよう」という線引きも二人で話し合っていたことができたし、提出物を必ずその日のうちに返して評価することができた。
- ④ 2年2組といっしょに勉強するようになって九か月が過ぎた。最初の頃はお互い様子をさぐりながら授業をすすめていたが、七月ごろから叱る時は叱り、やりなおし授業もやり「先生の白髪はぼくらあのストレスのせい？」等という会話もできるようになった。そうなるのに、この研修が役立ったと思う。レポートを書かねばという動機でワークシートを工夫してみたりアンケートを取ったりしたことが、多忙な中でも授業の改善へとつながったのではないかな。またKHシステムの研修からは、授業の中で「聞く力」をつけていくための指導法のヒントを学ぶことができた。